

三方右衛門人等自一被殉死之者種心名

千五右名 寔 大石内務卿 千右 高政 奥野打置

三百名 群代 佐三少将 三百名 三原 河村信清

五百名 三原 直友海軍 三百名 日 小山源吉

三百名 日 佐友佐右 三百名 日 原重右

三百名 春舟 田中隆左 三百名 群代 伊藤左兵衛

三百名 春舟 福川十右 三百名 柳澤 尾形金左

三百名 柳澤 尾形左兵衛 三百名 春舟 尾形久左

三百名 群代 高田右兵衛 三百名 群代 原重右

三百名 群代 幸田五右 三百名 群代 里村半右

三百名 中世 多岐左兵衛 三百名 京極 小幡寺十右

三百名 群代 尾村九平 三百名 群代 小幡吉右

三百名 山安右兵衛 三百名 山安 齋田又平

三百名 上清好介 三百名 三原 直松 部六

三百名 平中平平 三百名 三原 早川友右

三百名 中村清左 三百名 三原 同 衣左

三百名 橋本平右 三百名 三原 中村初右

三百名 原方友左 三百名 三原 川田信清

三百名 高田右兵衛 三百名 三原 仁平右

三百名 菅谷世道 三百名 三原 板戸初右

石名

千鳥平系

石名

猪田新左

石名中 石名

大寺源右

或井唯七

同 十郎中

見原源右

菅原三平

菅田八重

久野七郎

菅原忠房

菅原八重

久下誠右

松子源右

大島源右

菅原源右

石名

中次源右

石名

菅原源右

石名

堀部忠兵衛

石名

奥田源右

中在 村松忠兵衛

村松三右衛門

母名 三村源右

大七人

旗本五右衛門

右記亦志海印之者其之了了其具之 子五郎

巳月五月改姓内通 祝部忠兵衛

母方佐舟

戸田宗文

母方佐舟

戸田源右

日

日新源右

日

阿部山平

小果

沙生或中

六月南月後宅の妻外子人宛へ
おのれとておのれ

父方伯父

浅穂 屋徳子

お月為母屋子宛へ
おのれとておのれ

浅穂 屋徳子

おのれとておのれ

松平

屋徳子

浅穂 屋徳子

伯父 家合

内友伊蔵

松平

屋徳子

浅穂 屋徳子

右三人養年身奉田伯者宅へ
おのれとておのれ

おのれとておのれ

荒木十左

柳原兼女

右為月有赤穂上
おのれとておのれ

六月

おのれとておのれ

荒木十左

柳原兼女

おのれとておのれ

六月

戸田兼女

同 弾正

女部 丹波守

同 小十寸

右一人は家来主人の目録に後書宛の旨
は月名を記す 以て之を辨す

沙堂左三條

内殿 仔細

松平 仔細

右三人は目録に手紙の指し宛先は
以て之を記す 以て之を辨す

八月廿九日

吉良長門守

吉良長門守

日序

富山氏ノ手紙

一 重今其報揚内在る處に於て
以て之を記す 以て之を辨す
以て之を記す 以て之を辨す

十月十六日

米倉長門守

一 重今其報揚内在る處に於て
以て之を記す 以て之を辨す
以て之を記す 以て之を辨す

十二月十一日

米倉長門守

吉良長門守

一 重今其報揚内在る處に於て

同 吉良

和者少便后，修行家督在名林。しか世先中列位但了
当中後之是年家，侍生序菊より

一、海内名家子元禄十五年午七月十日有北平安藝志は
元禄十五年十二月十日

海内名家子元禄十五年午七月十日有北平安藝志は
吉良左衛門
糟谷平馬

正

一、今晚心平时海内名家子元禄十五年午七月十日有北平安藝志は
望有私家子元禄十五年午七月十日有北平安藝志は
海内名家子元禄十五年午七月十日有北平安藝志は

平山子元禄十五年午七月十日有北平安藝志は

十一月十日

平山子元禄十五年午七月十日有北平安藝志は
中し指也

海内名家子元禄十五年午七月十日有北平安藝志は

一、去年三月内名家子元禄十五年午七月十日有北平安藝志は
中し了指也
平山子元禄十五年午七月十日有北平安藝志は
海内名家子元禄十五年午七月十日有北平安藝志は
平山子元禄十五年午七月十日有北平安藝志は
海内名家子元禄十五年午七月十日有北平安藝志は

歴々來之陪幸扶背懐之使時多し均君父誓共奇
載天之夜難照止今日盡分及以宅、推集仕備繼亡之、意孰
他志之、在否、死後若何、見分、之方、存、之、有、形、口、指、見
也、在、乎、

元禄十五年 午ノ極月日

津南長権原來

大石内務卿

原 忠房

岡本久夫

大石 玄親

堀部 伊兵衛

吉田 忠房

片岡 原重

小栗 十因

坂貝 十右衛門

迫 松 勘六

富 友 助 房

堀 部 伊 兵 衛

奥 田 孫 次 夫

大 石 忠 房

岡 本 久 夫

荻 谷 忠 房

千 手 三 郎

大 石 忠 房

奥 田 孫 次 夫

大 石 忠 房

堀 部 伊 兵 衛

赤 松 源 重

奥 田 孫 次 夫

大 石 忠 房

中 村 勘 四

石 坂 勘 十 右 衛 門

本 村 忠 房

大 石 忠 房

大 石 忠 房

赤 松 源 重

金橋 侍所

北野 十手所

高原 侍所

山崎 侍所

東田 侍所

村松 侍所

菅原 侍所

同 新 侍所

村松 侍所

猪田 新 侍所

同 侍所

同 侍所

同 侍所

神崎 侍所

横川 侍所

三村 侍所

吉田 侍所

以去... 門前...

戸口...

折... 門前...

吉田...

同...

右... 門前...

完...

一... 門前...

理... 門前...

並... 門前...

右内入泉寺の事

一内区泉寺の事
下見込山麓の股引奉行より大方より復
原巻發白九ヶ所の藤を掛肩の金短冊の仮名実名亦藤世
を寺付總奉行の御役所奉行より付寄られたり

一右内区泉寺の事
徳名自布え包より

一右内区泉寺の事

一右内区泉寺の事
徳名自布え包より
一右内区泉寺の事
徳名自布え包より

一泉岳寺の事
泉内區泉岳寺の事
徳名自布え包より

位牌の事

於内區泉岳寺の事
泉内區泉岳寺の事

一元祿十五年十一月十四日南の各所より通左内區泉岳寺の事

泉岳寺の事
泉岳寺の事

泉岳寺の事
泉岳寺の事

泉岳寺の事
泉岳寺の事

泉岳寺の事
泉岳寺の事

泉岳寺の事
泉岳寺の事

泉岳寺の事
泉岳寺の事

泉岳寺の事
泉岳寺の事

泉岳寺の事
泉岳寺の事

三使ノ男ニ存人曰於七人ノ家ニ立寄久方云一奉仕
有光表ノ志有男ノ腹志也一死也今ノ所凡瑞娘願ヲ於天
其有瑞山号居ノ御辱也縁有ノ名近海仕ノ叶取申了居上
理介及以完推系別上理及以信戸是也系上仕能此所只若君
以必我元先身如ノ下家ノ小依指唯有西仕ノ以蓋下等
靈於五ノハ再ノ事也只ノ以替懐と遂返入

右ノ紙口於七人一日ノ上候

一其後若命之在若入封を付申候ノ是ノ下思及ノ難仕也
言余女方初者ノ紙ノ下

一之後上理若也若長在ノ所完ノ泉岳方ノ方便僧三人言為持老不

一吉良存志所及ノ以月有御形或於松田方合ノ

吉良存志所及ノ以月有御形或於松田方合ノ

吉良

用人

用人

小林幸八守

多井理右守

渡友豊守

神尾清左守

大波野清守

右田源八

柳宗重守

山塚源守

三原長守

物部善守

鈴木元守

鈴木善守

法外一守

足腰守

中乃善人

ノ於六人内善人御持書有也迄也名ノ下ノ十八ノ御方也

手取

松原春仲

赤坂十兵衛

長谷園右衛門

宮名重右衛門

宮名新次

山好形八郎

加藤吉右衛門

永江新次郎

松山三右衛門

天野冬之丞

堀江初右衛門

河原辰右衛門

杉山与五郎

石川重右衛門

大目吉右衛門

三浦重人

中島三人

ノシ雅人

吉原重一介

中程 村山重右衛門

中程 石原重右衛門

柳原重右衛門

中程 大津重右衛門

一内匠家来口程六人出陣

細河哉中守七人

松平隆政守七人

毛利甲斐守七人

水野監物七人

右六於 辰中六自付七以上七面七口七後七位七松平隆政守八病
身七存七今七口七仕七守七 故七名七存七先七中七不七以七通七路七不七命七存七不

細川哉中守七人

千吉右衛門 萬 大石内藏助 萬

武右衛門 萬 吉田右衛門 萬

三右衛門 萬 原忠右衛門 萬

三右衛門 萬 片岡重右衛門 萬

武右衛門 萬 石瀬久次 萬

隆信右衛門 萬 堀内右衛門 萬

百右衛門 萬 校員十中守 萬

武右衛門 萬 小野十内 萬